

2020年9月30日

報道関係各位

日本山岳書初の下山ドキュメント本
竹内洋岳『下山の哲学—登るために下る』(太郎次郎社エディタス)
世界8000m峰14座の全下山を辿る日本初のノンフィクション書籍
10月1日(木)よりAmazonほか全国書店にて先行予約開始

日本人唯一の世界8000m峰14座完全登頂を達成したプロ登山家・竹内洋岳（所属：ハニーコミュニケーションズ）は、書籍『下山の哲学—登るために下る』を2020年10月30日(金)に太郎次郎社エディタスより発売いたします。これに先駆けて2020年10月1日(木)より、Amazonほか全国書店にて先行予約を開始いたします。



『下山の哲学—登るために下る』カバーイメージ

本書籍は、世界8000m峰14座に登った竹内洋岳自身の全下山を辿る、日本山岳史上初の下山をテーマにしたノンフィクション書籍です。これまで、登る事ばかりを主題とした山岳書が出版されてきましたが、本書籍では山岳書初となる8000m峰14座の全下山をテーマにし、登頂に成功した下山だけでなく、登頂出来なかった下山についても収録しています。

- 日本人で唯一8000m峰14座を完全登頂した14サミッターにとっての下山とは？
- 17年にわたる14座の全下山をたどり、現在に続く新たな挑戦を報告する。
- 本人を深く知る6人へのインタビューをとおして竹内洋岳を「解剖」するコラムも収録。

<特設ページ>

<https://honeycom.co.jp/hirotaka-takeuchi/gezan-no-tetsugaku/>
出版までのインタビューの様子は販売まで公式サイト内特設ページにて紹介いたします。

- ◆ Amazon予約販売ページ（2020年10月1日公開）
<https://www.amazon.co.jp/exec/obidos/ASIN/4811808436>
- ◆ 太郎次郎社エディタス紹介ページ（2020年10月1日公開）
<http://www.tarojiro.co.jp/product/6050/>

なお、書籍情報の詳細及び竹内洋岳のプロフィールに関しては次ページ以降をご参照ください。

『下山の哲学——登るために下る』 概要

竹内洋岳最新刊にして、山岳書初の「下山」ドキュメント。ヒマラヤ8000m峰14座完全登頂とは、14の山すべての頂から無事に下ってくるということ。「生きて還ってこなければ、下山しなければ、登山ではない」とつねづね語り、それを実現してきた竹内は、どのように山を下ってきたのか。疲労困憊のなかで頻発する危機、生死を分けた判断と行動、朦朧とする頭で考えていたこと……。敗退もふくめて、17年にわたる14座の全下山をたどり、現在に続く新たな挑戦を報告する。世界的クライマー、ラルフ・ドワイモビッツはじめ、本人を深く知る6人へのインタビューをとおして竹内洋岳を「解剖」するコラムも収録。



登るために下る

竹内洋岳

構成：川口穰

下山の哲学

本編定額社
エディタス

【書籍情報】

タイトル：下山の哲学——登るために下る

著者：竹内洋岳

構成：川口穰

予価：本体1,800円+税

体裁：四六判並製／256ページ／C0075

ISBN：978-4-8118-0843-7

発売予定日：10月30日（金）

・Amazonの書籍情報ページ（10月1日公開）：

<https://www.amazon.co.jp/exec/obidos/ASIN/4811808436>

・太郎次郎社エディタス紹介ページ（10月1日公開）：

<http://www.tarojiro.co.jp/product/6050/>

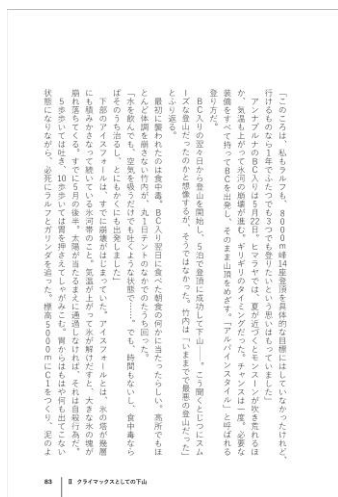
※発売日、ページ数、書名、体裁等は予定であり、今後変更される可能性があります。

【著者略歴】

竹内 洋岳（たけうち ひろたか）

プロ登山家（ハニーコミュニケーションズ所属）

1971年、東京都生まれ。立正大学客員教授。1995年のマカル（8463m）登頂。1996年には、エベレスト（8848m）とK2（8611m）の連続登頂に成功。アルパインスタイルも積極的に取り入れた速攻登山で8000m峰に挑み続け、2012年に14座目となるダウラギリに登頂に成功。日本人初、世界29人目となる8000m峰14座完全登頂を果たす。2013年、植村直己冒険賞、文部科学大臣顕彰スポーツ功労者顕彰を受賞。現在は、未踏峰への挑戦を続ける傍ら、登山経験を生かし、野外教室や防災啓発などの社会貢献活動にも取り組んでいる。著書に『標高8000メートルを生き抜く 登山の哲学』（NHK出版新書）、『頂きへ、そしてその先へ』（東京書籍）、聞き書きによる書籍に塩野米松『初代 竹内洋岳に聞く』（ちくま文庫）など。



「下山の哲学——登るために下る」本編から

(目次)

・▼「役割」(大規模登山隊)から「愉しみ」(少数精鋭チーム)へ
1995年 マカルー [1座目] 8000m峰初下山
1996年 エベレスト [2座目] デスゾーンからの逃避
1996年 K2 [3座目] ベースキャンプへの「登頂」
2001年 ナンガパルバット [4座目] 切りひらいていく下山

・▼クライマックスとしての下山

2003年 カンチェンジュンガ [敗退] ホワイトアウトのなかを
2004年 アンナプルナ [5座目] 二度と行きたくない山
2004年 ガッシャーブルムI峰 [6座目] 身近にある死
2005年 シシャパンマ [7座目] ぐるり1周旅の締めくくり

・▼生還するために

2005年 エベレスト [敗退] 死後の帰還
2006年 カンチェンジュンガ [8座目] 見失った帰路
2007年 マナスル [9座目] 灼熱のラッセル地獄
2007年 ガッシャーブルムII峰 [敗退] 雪崩に飲みこまれて

・▼ヒマラヤへの復活

2008年 ガッシャーブルムII峰 [10座目] つぎの山への登り
2008年 ブロードピーク [11座目] 激痛と落石の恐怖
2009年 ローツェ [12座目] もっともつらい下り

・▼14サミット完全下山

2010年 チョ・オユー [敗退] 新たなパートナーと
2011年 チョ・オユー [13座目] 幻覚のなかの軌道修正
2012年 ダウラギリ [14座目] 極限の夜を超えて

つぎの山へ——14サミッターの現在地

▼インタビュー

「登山家の突然変異」——シューフィッター 釣巻健太郎の視点
「妥協なき道具マニア」——登山用腕時計開発者 牛山和人の視点
「強くて繊細なlovely person」——14サミッター ラルフ・ドワイモビッツの視点
「スマートな野心家」——医師 柳下和慶の視点
「つかまえちゃダメな人」——山岳気象予報士 猪熊隆之の視点
「つねに帰り道を知っている人」——山岳カメラマン 中島健郎の視点

【出版社情報】

株式会社太郎次郎社エディタス会社概要

会社名：株式会社 太郎次郎社エディタス

本社：〒113-0033 東京都文京区本郷3-4-3-8F

代表：北山理子(社長) 須田正晴

資本金：10,000,000円

H P：<http://www.tarojiro.co.jp/>

設立：2003年5月8日

2004年10月、株式会社太郎次郎社より全営業譲渡

事業：教育・社会・家族などの分野の書籍や、「漢字」「かな文字」「算数」などの教材教具を
企画制作・発行

代表電話：03-3815-0605

【竹内洋岳プロフィール】

竹内洋岳（タケウチ ヒロタカ）

プロ登山家（所属：ハニーコミュニケーションズ）

日本人唯一の世界8000m峰14座完全登頂者

立正大学客員教授

生まれ：1971年（昭和46年）

出身地：東京都出身

身長/体重：身長180cm/体重65kg

主な受賞歴：
・2013年「文部科学大臣顕彰 スポーツ功労者顕彰」受賞
・第17回「植村直己冒険賞」受賞
・第15回「秩父宮記念山岳賞」受賞

公式サイト：<https://honeycom.co.jp/hirotaka-takeuchi/>



8000m峰14座登頂の軌跡

- 1995年 1座目 マカルー（8463m）遠征隊に参加し8000m峰初登頂を成功
1996年 2座目 エベレスト（8848m）登頂成
3座目 K2（8611m）の登頂成功
2001年 4座目 ナンガパルバット（8126m）登頂成功 ※
2004年 5座目 アンナブルナ（8091m）登頂成功 ※
6座目 ガツシャブルムⅠ峰（8068m）登頂成功 ※
2005年 7座目 シシャパンマ（8027m）登頂成功 ※
2006年 8座目 カンチェンジュンガ（8586m）登頂成功 ※
2007年 9座目 マナスル（8163m）登頂成功 ※
2008年 10座目 ガツシャブルムⅡ峰（8035m）登頂成功 ※
11座目 ブロードピーク（8051m）登頂成功 ※
2009年 12座目 ローツェ（8516m）登頂成功 ※
2011年 13座目 チョ・オユー（8201m）登頂成功 ※
2012年 14座目 ダウラギリ（8167m）登頂成功 ※ ※無酸素登頂

株式会社ハニーコミュニケーションズ会社概要

会社名：株式会社ハニーコミュニケーションズ

本社：〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5丁目21-6 プラザF1ビル4F

代表：代表取締役社長 戸田 知礼

資本金：10,000,000円

H P：<https://honeycom.co.jp/>

設立：2018年9月

事業：
・企業、各種団体、個人の広報コンサルティング及び代行業務
・ブランディング及びマーケティングコミュニケーション業務に関する企画、制作、管理、運営、販売及びプロデュース事業
・広告企画・制作・管理・販売・購買等に関する事業
・ウェブコンテンツ及びシステムの企画、制作、管理、運営、販売及びプロデュース事業
・セールスプロモーション（SP）、販売促進企画、管理、運営業務
・イベント企画・制作・運営・管理業務
・ノベルティ企画・制作・販売業務
・各種映像制作・写真撮影業務
・アスリート・文化人のマネジメント業務

<報道関係の方のお問い合わせ>

〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-21-6 プラザF1ビル4階
株式会社ハニーコミュニケーションズ

TEL：03-6274-8323 FAX：03-6274-8322 E-mail：contact@honeycom.co.jp